

平成 27 年度 第 2 回 倫理審査委員会審議

申請者	救急センター長	藤原 紳祐
受付番号	15-08	
課題名	Ethicus II (ICUにおける終末期医療に関する観察研究)・ Ethicus II (The international observational study on end-of-life care in the ICU)	
研究の概要	<p>世界の終末期医療の実態を国際的に把握し、その違いを生む要因を分析し、今後の終末期医療の改善を図る。</p> <p>研究開始後、集中治療室で亡くなる症例について行った終末期医療の方法について、心肺蘇生の実施、脳死状態の有無、治療制限の有無、積極的安楽死の有無について、診療情報を収集する。特に、医療者および本人・家族の宗教的背景などにも注目する。国際的なデータ収集のなかで、特にアジア地域の日本の一病院としてのデータを提出する。調査対象は 2016 年 3 月 31 日までに国立病院機構嬉野医療センターの集中治療室に入院し死亡した症例とする。</p>	
判定	不承認	研究計画書を再検討、修正をしたうえで次回再審議とする。

申請者	西 4 病棟看護師	市丸 愛生
受付番号	15-09	
課題名	青年期における炎症性腸疾患患者の障害受容過程	
研究の概要	<p>消化器系の代表的な難病に潰瘍性大腸炎、クローン病（以下 IBD と略す）がある。腹痛・下痢・栄養障害を主症状に、再燃と寛解を繰り返し、薬物療法や食事・栄養療法を必要とする疾患である。主に思春期・青年期に発症することが多いことから、患者は長い闘病生活を送っている。</p> <p>患者の発症からの疾患に対する受け止め方を知ることで、今後 IBD 患者との関わりで、声掛けの仕方や、患者の気持ちを引き出すにはどのようにすれば良いかの関わり糸口になると考える。このことから、IBD 患者の心理的变化について調査し、患者に必要な看護アプローチは何かを明らかにしていく。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	内科系診療部第二部長	室屋 隆浩
受付番号	09-01	
課題名	高 LDL コレステロール血症を有するハイリスク高齢患者（75 歳以上）に対するエゼチミブの脳心血管イベント発症抑制効果に関する多施設共同無作為化比較試験（EWTPIA 75）	
研究の概要	<p>本研究は加齢と高 LDL コレステロール血症に加えて、糖尿病、高血圧、低 HDL コレステロール血症、高トリグリセリド血症、喫煙、脳梗塞既往、末梢動脈疾患既往といった因子を最低どれか一つ有するハイリスクの患者を対象として、脂質低下薬であるエゼチミブを用いて LDL コレステロールを低下させることがはたして脳心血管イベントの抑制につながるかどうかを明らかにする。</p>	
判定	迅速審査承認	H21.5.28 付承認課題。研究計画書変更のため再審査の結果、承認となった。

申請者	附属看護学校教員	柴田 裕子
受付番号	15-10	
課題名	看護過程実習における学生の学習プロセスに応じた学習支援 ～実習前演習からの臨地実習指導者と連携した取り組みの効果～	
研究の概要	<p>本校では、2年前より実習指導者と学生との実習前演習を行っている。その結果、患者理解に必要な日常生活上のアセスメント、患者の計画立案、患者の病態の理解につながった。一方、実習指導者は、学生のレディネスの理解、指導内容の意識化、意図的な指導につながったが、実習評価点への効果は低かった。</p> <p>それには、一つ目の要因として、学生側の学習の準備状況が十分でなかったことが考えられたため、実習前演習以前に、看護過程と治療論での学びを統合しての演習を実施し、さらに、実習前演習で取り上げる事例について事前にグループ学習・指導を行った。</p> <p>二つ目の要因としては、実習指導者が把握した学生のレディネスがその後の実習指導（学生の対象理解）にどのようにつながったのかを明らかにできていないことにある。そこで実習前演習において、学生が事例患者の病態・治療から、どのような生活への影響があるのか、そこにどのような看護が必要か、といった考え方のプロセスをたどることができるように実習指導者とともに協働して、演習を進めた。</p> <p>実習前演習以前の、看護過程演習と治療論、事前学習の支援と、実習前演習を行ったことで、学生が実習において患者をどのように捉えたか、対象理解の目標は達せられたか、また、この取り組みが学生の实習目標達成を容易にすることにつながったか、について明らかにすることが、今後の実習指導の充実につながると考える。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。